



さい帯血バンクNow

第7号

http://www.j-cord.gr.jp/

設立3周年と公開1万件突破

記念全国大会に160人

日本さい帯血バンクネットワークが発足したのは、3年前の1999(平成11)年8月11日に設立総会が開催され、正式に各地のさい帯血バンクを結ぶ組織として活動を始めました。設立3周年と、インターネットで公開している保存さい帯血が1万件を突破したことを記念して、9月7日に東京・一ツ橋の日本教育会館で、「日本さい帯血バンクネットワーク設立3周年記念大会」が開催されました。= 2・3面にグラフ

9月7日・東京で



患者さんの生の声に関係者は感銘

移植を受けた患者さんも

この3周年記念大会には、全国からさい帯血バンクに携わっている関係者が集まるとともに、骨髄バンクの関係者や患者さんたち、さらには一般市民やボランティアの皆さんなど、160人以上が参集して会場は満席となりました。

まず、主催者を代表して齋藤英彦会長があいさつし、厚生労働省、日本赤十字社、さい帯血バンクボランティアの会、骨髄移植推進財団、全国骨髄バンク推進連絡協議会の代表

が来賓として3周年の祝辞を述べました。さらに、基調報告として野村正満事業運営委員長が「3周年のあゆみ」を、原宏会長が「今後の課題」などを報告しました。

司会は提供経験者

また、記念シンポジウムとして、さい帯血バンクが提供したさい帯血で移植をした患者さんたちが登場しました。移植を受けたのは小児の患者だけでなく、3人の成人の患者さ



イス席を補充するほど多数の参加者もさい帯血移植で病気を克服して社会復帰するなど、元気な姿とともに、厳しい闘病生活について、感動的なお話を披露してくれました。

さらに、さい帯血を提供した大勢のドナーを代表してお母さんとその時生まれたお子さんも登場しましたが、この大会の司会を担当したフジテレビの木幡美子アナウンサーも、昨年出産してさい帯血を提供したことが明かされました。

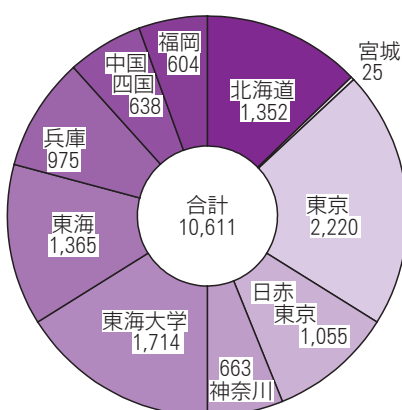
さい帯血バンク関係者は患者さんと直接会う機会があまりないため、「この大会で元患者さんの生の声を直接聞いたのは、とてもよかった」との声が聞かれました。

●各バンクの移植(供給)数

バンク名	~01年度	02年度	合計
北海道	104(105)	18(21)	122(126)
宮城	0(0)	0(1)	0(1)
東京	114(118)	10(10)	124(128)
日赤東京	30(33)	8(8)	38(41)
神奈川	61(62)	3(3)	64(65)
東海大学	64(66)	20(21)	84(87)
東海	107(108)	13(14)	120(122)
兵庫	91(97)	23(23)	114(120)
中国四国	12(13)	3(2)	15(15)
福岡	18(22)	5(3)	23(25)
合計	601(624)	103(106)	704(730)

【注】①上の表とグラフのデータは2002年8月末現在。②表の数字はカッコ外が移植数、カッコ内が供給数。これは各バンクに供給しても、移植に至らなかったケースがあるため。

●保存さい帯血の公開数



写真でたどる3周年記念全国大会

主催者あいさつ



齋藤英彦会長



基調報告



野村正満
事業運営委員長

「3周年のあゆみ」



原宏副会長

ご来賓



左から、高原亮治・厚生労働省健康局長、白戸恒勝・日本赤十字社事業局血液事業部長、原谷眞由美・日本さい帯血バンク支援ボランティアの会東京支部代表、高久史磨・骨髄移植推進財団理事長、笠原慶一・NPO全国骨髄バンク推進連絡協議会理事長

小児の元患者さんと両親



①横浜市の根岸彩ちゃん(7歳)は97年8月に移植。左右は両親の誠さん、ひろみさん。②大阪市の数本彩椰ちゃん(8歳)は97年9月、弟の和羽君(6歳)は98年3月に移植。左右は両親の正義さん、美穂さん。3人とも今は元気いっぱい



成人の元患者さん

(左から)千葉県木更津市の石堂晃紀さん(43歳)は今年2月、同県印旛郡の工藤寿子さん(37歳)は昨年7月、新潟県上越市の玉城沖彦さん(26歳)は昨年11月にそれぞれ移植



提供者



横浜市に加藤尚代さん(31歳)は、長女の樹紗ちゃん(9歳)は、長女の出産した99年1月にさい帯血をバンクに提供。インタビュー中に、大会の司会を務めた木幡美子さん(フジテレビアナウンサー)も昨年1月に提供したことを表明

各バンクの参加者総登場①



東京

各バンクの参加者②



北海道



宮城



日赤東京



神奈川



東海大学



東海



兵庫



中国四国



福岡

プライベートバンク問題で警告文

日本さい帯血バンクネットワークでは、企業による営利目的のさい帯血私的保存の問題について、プライベートバンク対策小委員会を設けて検討を重ねています。=第6号既報



この問題について小委員会では、企業が呼びかけるさい帯血の私的保存を検討している妊婦さんなどに向けて「警告文」を発表することを決め、8月21日の事業運営委員会の承認を得てネットワークとしての姿勢を明らかにすることになりました。8月23日には、厚生労働記者クラブで、野村正満事業運営委員長と中

林正雄副委員長が記者会見してネットワークの見解を述べました=写真。今後は、産婦人科の学会に働きかけ、さい帯血の採取現場にいる産科医に正しい理解を求めることとなります。

一方、時を同じくして、プライベートバンク問題について日本造血細胞移植学会では「声明文」を発表し、「安全性と有用性に関しては疑問を

警告！ さい帯血の私的保存について

なお、日本さい帯血バンクネットワークが発表した警告文（抜粋）は次の通りです。

1. 凍結保存した細胞を、将来白血病などの治療のための移植に使用するには、十分な細胞数が必要です。
2. 「将来いくらでも細胞を増やせる」というのは、まだ確立された技術ではありません。
3. 移植を受けるときは全身の抵抗力が弱っています。せっかくの移植

持たざるをえない」と「強い懸念を表明する」とともに、「さい帯血バンクネットワークをさらに拡充することが国民的重要課題であることを再確認する」としています。

こうした動きを受け、厚生労働省臓器移植対策室長は「今後の対応を検討しているところ」であるとの姿勢を文書で明らかにしました。

用の細胞に細菌などが混ざっていると危険です。

4. 私的に保存したさい帯血をご本人の移植に使う可能性はほとんどありません。
5. 世界的に自己のさい帯血を用いた移植について、確かな臨床的データはありません。
6. 日本さい帯血バンクネットワークの保存数・登録数は毎月着実に伸びています。



すこやかに、幸せに。
明日への夢、描きたい。

NIPRO

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。

NIPRO

ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

リレー
紹介⑦

兵庫さい帯血バンク

兵庫さい帯血バンクは平成7年11月、近畿臍帯血バンクのサブバンクとして設立され、平成12年9月からは、特定非営利活動法人(NPO) 兵庫さい帯血バンクとして活動しています。

事務局、調製・保存場所は兵庫医科大学内にあり、兵庫県下(13)・大阪府下(1)の採取施設から、元気に生まれた赤ちゃんのさい帯血がさい帯血バンク支援ボランティアの会の方々などの協力により日々届けられています。

このさい帯血は、採取後24時間

以内に調整され、細胞数や幹細胞数、HLA・感染症などの検査を済ませ、赤ちゃんの6カ月検診が終了した後に正式に登録されネットワークに公開されます。

兵庫さい帯血バンクでは国・県の補助を受けて購入した3626個のさい帯血を冷凍保存できる「サブロー・ジロー君」という大型保存タンクで保存しています。本年7月末までに1800件を凍結保存(別の液体窒素タンクの気相 -170°C で保存)し、1641件が仮登録(お母さんやさい帯血の検査が終了し

問題なしと判定されたものを液相 -196°C に移します)、そして赤ちゃんの6カ月検診が終了した正式登録さい帯血1095件がサブロー・ジロー君に移され、その中から87の臍帯血が出庫、82が移植に用いられました。この中には、実際には移植されませんでした。昨年9月の同時多発テロ事件で米国からの非血縁骨髄液が届くかどうか分からなかった時に緊急出庫したものもあります。

サブロー・ジロー君を満杯にすることは大事なことです。一方、さい帯血は移植に利用されて初めて陽が当たります。細胞数が 6×10^8 個以下のものは基準を満たしていてもほとんど利用されておらず、一方 10×10^8 個以上のものは20%以上が、また、 15×10^8 個以上のものは半数近くが利用されており、公開されるや速やかに出庫されタンクの中の滞在期間が非常に短くなっています。

当初の目標であったさい帯血2万個保存の達成が近くなってきた現在、今後は小児のみならず成人の患者さんにも安全に移植できるような細胞数の多いさい帯血でサブロー・ジロー君をいっぱいにするよう、採取病院を含めバンク関係者一同頑張っています。



さい帯血保存タンクと芦尾長司理事長

公開後は速やかに出庫

ご寄付をいただきました

温かいお心ありがとうございます。

名古屋市・三品雅義様	1万円
京都北ロータリークラブ様	140万円
台北北ロータリークラブ様	60万円

善意をお待ちしています

日本さい帯血バンクネットワークでは、広く皆様からの善意を受け付けております。ご寄付はすべてさい帯血バンク事業のために使われます。

<寄付受け付け専用口座>

郵便振替口座番号：00180-9-57390

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク

全国大会の舞台裏

毎月開催の広報部会で記念大会開催の話題が初めて出たのは5月でした。ネットワークの設立3周年を8月に控え、ちょうど同じ時期にさい帯血の公開数が1万件を突破することが確実視されたからです。

6月の部会で「実施」が決定し、ネットワークにとって初のイベント準備が始まりました。8月は学会や海外出張など、ドクターが多忙なため9月開催を決めたのですが、会場探しが難航しました。ほとんどの会場が予約済みだったのは、この日が「友引」だからだと聞かされました。プログラム内容がほぼ決まったのは7月でした。さっそくチラシづくりと出演

者交渉が始まりました。「主役」となる移植を受けた患者さん、そしてさい帯血の提供者探しがスタートしたのです。患者さんは2例以上の移植を実施した病院に照会状を出して協力をお願いしました。

司会はフジテレビアナウンス室に依頼しましたが、決定してみればなんとご本人がさい帯血の提供者だとわかったのです。プログラムも前日に出来上がって当日を迎えました。

ところで、本誌は通常、タイトルや図表などを着色した2色刷りですが、「ある法則」があることにお気づきでしょうか？ 実は虹の配色なのです。赤で始まり今号で紫で一巡したわけですが、記念大会にふさわしくフルカラーにしてみました。